

## - 足利市役所 -

## 市道鹿島山下通り道路改良事業について

## 1. はじめに

足利市は、栃木県の南西部に位置する人口約14万人の都市で、東京から北へ80kmの位置にある。また、北へ連なる緑の足尾山地、南部は関東平野に広がる豊かな田園、そして市街地中心部を東西に流れる一級河川渡良瀬川の清流など、豊かな自然に恵まれた美しい街である。更に、日本最古の学校といわれる日本遺産「史跡足利学校」や、本堂が国宝に指定された足利氏ゆかりの「鑊阿寺」に代表される歴史文化遺産、樹齢150年を誇る600畳敷の大藤棚等を有する「あしかがフラワーパーク」など数多くの観光資源にも恵まれている街である。

本市は、令和3年に市制100周年を迎えることから、次の100年に向かい「元気に輝く都市足利」を創造するため、安全で快適な道路網の整備、移住・UIターン推進など、ハード・ソフトの両面で様々な事業を展開している。

## 2. 事業の概要

市道鹿島山下通り道路改良事業は、JR両毛線により分断された南北市街地の一体化を図ることはもとより、北関東自動車道太田桐生ICと、足利市西部地区の幹線道路である市道三重小俣通りを連結し、高速交通網と連携した道路交通ネットワークの強化、更には、沿道土地利用の促進を図ることにより、本市の更なる活性化を目指すものである。

また、JR両毛線及び主要地方道桐生・岩舟線をアンダーパスで立体交差とすることで、移動時間の短縮や交通渋滞の緩和、更には、踏切における危険防止を図るものである。

本事業の主要構造物である、アンダーパスを構成するボックスカルバートの延長は78.9m、U型擁壁の延長は114.0mであり、本市におけるアンダーパスの中では最長となっている。事業期間は、平成11年から令和2年まで22年間を要し、また、その事業費は、約57億円に及ぶなど、本市の道路改良事業においては、過去最大の規模である。

工事にあたっては、交差するJR両毛線及び主要地方道桐生・岩舟線を供用しながら施工すること、更には、地盤に大きさ40cmを超える玉石が多く混入しており、仮設土留め材の打込みが困難であったこと、湧水が多く止水工事が必要であったことなどの課題があったが、令和2年5月24日に、無事に供用開始を迎えることができた。



鹿島山下通り全景



鹿島山下通り立体交差部

## 3. おわりに

他市に誇れる豊かな自然や多様な観光資源、更には、東京から約1時間圏内という恵まれた立地条件を最大限に活かすとともに、市民と一緒に100年先の未来を見据えながら、自然災害や新型コロナウイルス感染症などにも負けない、賑わいや活気にあふれる「元気に輝く都市足利」を目指していきたい。

足利市 都市建設部 道路河川整備課 杉江 孝佳